

聖地巡礼を地域発展の戦略とする

宗教の聖地に 集中する信者

宗教では教祖が誕生した場所や宗教が発生した場所を聖地とし、熱心な信者が参拝に出掛ける聖地巡礼という行事がある。世界の三大宗教とされるキリスト教はエルサレム、イスラム教はメッカ、仏教はルンビニが聖地の代表であるが、信者は特定の時期に集中して参拝に向く。宗教によつては大変な人数になり、イスラム教徒にとっては一生に一度の聖地への巡礼であるハッジには世界各地から二〇〇万人近い信者が参拝に来訪する。

かつては日本でも匹敵する規模の参拝が実現していた。日本の神社の最高の位置にあるとされた伊勢神宮には一生に一度は参拝したいと、中

世から近世の時代の庶民は仲間や資金を積み立てる「伊勢講」を用意し、抽選などによつて選抜された数人が代表として参拝する制度を運営していた。年間二〇万人から四〇万人が参詣し、六〇年に一回の「おかげ参り」の年には全国から数百万人が参詣したとされている。

迷惑になりかねない 聖地巡礼

このような活動は聖地巡礼と名付けられるが、最近は宗教を背景としない聖地巡礼が登場してきた。鎌倉と藤沢を連絡する私鉄の江ノ島電鉄線の鎌倉高校前駅の付近に踏切がある。全国のどこにでもあるような踏切であるが、国内どころか海外からも見物する人々が殺到している。理由は累計発行部数一億七〇〇〇万部

以上で海外でも人気のバスケットボールを主題とする漫画『スラムダンク』の冒頭に登場する風景ということである。

東京の信濃町駅から北側に約五〇〇メートルの位置にある住宅地域に急峻な石段の通路が存在する。都会のどこにでも見掛けるような変哲のない光景であるが、ここに多数の若者が見学に来訪している。二〇一六年に公開され、日本映画の世界歴代二位となる四〇〇億円以上の興行収入を記録した新海誠監督のアニメーション映画『君の名は。』の主役少年が生活する舞台が一带に設定されているからである。

これらの聖地巡礼は地域にとつて恩恵よりも迷惑になりかねない場合もある。江ノ島電鉄線の場合、車道に観客が氾濫するため車両交通の妨

げになっており、『君の名は。』に登場する石段は閑静な住宅地域にあるため住民にとっては迷惑な行動である。最近では山梨県内のコンビニエンスストアの彼方に富士山が遠望できる場所に人々が殺到したため、遠望できないように黒幕を設置するという事態まで発生している。

漫画や映画が 創造する聖地

反対に聖地巡礼が地域に恩恵をもたらす事例も存在する。東京の荒川区の三ノ輪橋停留場から新宿区の早稲田停留場まで運行する路面電車「東京さくらトラム」の三ノ輪橋停留所の北側に、八〇以上の商店で形成される「ジョイフル三の輪商店街」がある。ここでは「3年B組金八先生」「万引き家族」「家政夫のミタゾノ」「街並み照らすヤツら」など多数の映画や放送番組が撮影され、その影響で見物のために到来する人々が急増している。

東京の文京区には明治時代初期からの歴史がある「江戸川橋地蔵通り

商店街」が存在する。延長二五〇メートルほどの街路の両側に商店が連続する全国各地にある光景であるが、ここでパンを製造販売する「サンエトワール」という商店には国内だけではなく外国からも人々が来訪する。二〇一七年から放送されているアニメーション作品『バンドリ！』に登場する「チョココロネ」というパンを購入することが目的である。ここまですべて東京に関係する事例が多数であったが、地方にも事例は豊富に存在する。新海誠監督の映画『すずめの戸締まり』は岩戸鈴芽という少女が全国を旅行しながら探検する物語であるが、その訪問する場所は現実の場所を想定している。映画に神戸の九宮筋商店街として登場するのは三ノ宮駅付近の二宮商店街であり、六甲山中の時代があった遊園地は神戸の道の駅にある「神戸おとぎの国」ではないかと推定される。

地域発展の 引力となる聖地

ここまですべて紹介した事例からも想像

できるが、人気のある映画やテレビジョン番組の若者世代への影響は多大である。日本は人口減少社会に移行しており、東京以外のほとんどの道府県の人口は減少している。そのような時代に地域を発展させるためには、訪問人口や関係人口といわれる自域以外の人口の短期の来訪が重要である。修学旅行や夏期学校を誘致して関係人口を増加させる以外に、聖地巡礼人口の増加も有力な地域発展手段である。

さらに重要な聖地巡礼の意義は、全体として減少していく国内の人口を誘引する以上に、海外からの訪問人口を誘致できることである。『すずめの戸締まり』の国内の興行収入は一四七億円であるが、海外では中国の一五七億円を筆頭に合計二三七億円と国内の一・六倍である。映画の興行収入だけでも相当の金額であるが、インバウンド誘致の引力としても重要である。地域は聖地となる文化を発掘し、世界に発信する時代である。

東京大学名誉教授
つきお よしお
月尾嘉男



昭和一七（一九四二）年生まれ。東京大学工学部卒業。工学博士。コンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策等を研究する。とともに、全国各地で私塾を主宰し、地域の有志と共に環境保護や地域計画に取り組み。